

～地域に信頼される病院を目指して～



～心地よい空間に～ 環境整備課

後列 みずなしみつく 水梨 貢さん ひらた ひろみ 平田 弘美さん なかがわら 中川原とせ子さん せんざわ まさえ 千澤 昌江さん くどう まさゆき 工藤 雅之さん

前列 おさない 小山内みよ子さん こいずみ ゆみこ 小泉由美子さん ひがしな おみ 東 尚美さん

ハチにご用心!!



ごちゃませ研修会



平成 30 年度
弘前大学医学部医学科

クリニカルクラークシップ

整形外科で
実習しました!

オンライン診療 はじめました



南部町フルーツ娘 **中村園美さん**





ハチにご用心!!



記 角沢

7月から9月にかけて、ハチ刺されで来院される患者さんが多くおられます。ハチの毒には、アレルギー反応を起こす成分や、ヒスタミンが多く含まれているため、急に血圧が上がり、めまい、吐き気、意識がなくなる等、重度のアナフィラキシーショックを起こすことがあります。

アレルギーとは

アレルギーとは、本来体を守るための成分“免疫”（抵抗力）反応のエラーと言われています。

免疫反応の仕組みが食べ物や花粉など、私たちの体に害を与えない物質でも、逆に反応して攻撃をするため、重症なものだと呼吸困難となり死にいたるなど、本来は細菌やウイルスから守るはずの免疫が自分を傷つけてしまうことです。



アナフィラキシーとは？

アレルギー反応が短時間で全身、皮膚や、粘膜・呼吸器、消化器などに激しく現れることをいいます。もう少し分かり易く表現しますと、ハチに刺される、食物、薬等が合わない、その他原因がはっきりしないが外部からの刺激によるもの等です。このアナフィラキシーによって血圧の低下や、意識障害などを引き起こし、場合によっては命をおびやかす危険な状態になることを、「**アナフィラキシーショック**」といいます。

日本国内において、年間20～30名の方がハチ刺されにより亡くなっています。その原因のほとんどは「**アナフィラキシーショック**」です。

ハチの毒に注意 !!

ハチの毒は初めて刺された場合でも、直接作用によりアナフィラキシー様ショックを起こすことがあります。蜂毒によるアナフィラキシーショックは回数を重ねるごとに重篤になります。

2回目以後では、ショックを起こす可能性が高く、時に命にかかわる事もありますので、すぐ医療機関を受診するよう心がけましょう。

自己注射薬

強いアナフィラキシーが起こった際、応急処置をするための自己注射薬があります。一度、ハチに刺されたことがある方、また山などへ入ると速やかに病院受診できない場合もありますので、携帯していると安心です。

しかし、ショック状態緩和のための補助治療薬であるため、使用後は、すぐに病院を受診することが大切です。

処方希望の方はまずは、病院へご相談下さい。



自己注射薬 エピペン



**ハチに刺されたら早めに
医療機関の受診を…**



平成 30 年度
弘前大学医学部医学科

整形外科で
実習しました！

クリニカルクラークシップ について

記 梅舘

当院は弘前大学医学部と臨床実習に関する協定を締結しており、学生を受け入れる教育施設となっております。6月と7月に各1名ずつ、医学生の受け入れ入れをしました。

クリニカルクラークシップ（臨床実習）とは…。

学生が医療チームの一員として実際の診療に参加し、より実践的な臨床能力を身に付ける臨床参加型実習のことです。学生は student doctor として診療に参加し、指導医の指導・監視の下で一定の範囲内での医行為を実践することが許容されます。

6月 谷本 和也先生



感想

まずはじめに、一ヶ月間お忙しい中ご指導して頂きありがとうございました。初めはどんな一ヶ月間になるのだろうと思っていましたが、終えてみるとあっという間に時間は過ぎていき外来での診察手技や考えられる識別疾患、画像の読み方、脱臼に対する整復手技、ルートとりや採血、手術での糸結びそれだけでなく地域連携室、検査室、リハ室、放射線科、麻酔科など…文字通り「頭」も「手」も動かした、とても多くのことを学べた一ヶ月間だったと思います。不勉強な部分が多く質問することが多かったと思いますが、温かく受け入れてもらえて嬉しかったです。午前先生方の病棟処置見学や担当患者の診察と電子カルテへの記載と外来見学を、午後は手術見学や外来見学をさせていただきました。そこでの先生方の患者さんに対する姿勢がとても温かく、「ああこういう先生になりたい」と思いました。医学部だけでなく研修医になってからも南部での一ヶ月間を忘れずに謙虚に勉強していきたいと思えます。一ヶ月間ありがとうございました。

7月 三上 洋平先生



感想

今回、南部病院整形外科にて7月2日～27日の4週間実習させて頂く機会を得ました。実習では外来診療や手術、病棟での担当の受け持ちを行い、また医師の業務の他に看護師、リハビリ、放射線科、地域医療連携室など他部門の業務を見学、参加しました。臨床実習の中で、整形外科の専門的な知識や技術の習得だけにとどまらず、職種間の連携や南部地方の医療の現状など、地域医療を実践する上で重要なことを数多く学ぶことができました。今回の実習が学生生活の中での最後の臨床実習でしたが、その場所として南部病院でお世話になることができ充実した一ヶ月を過ごすことができました。今回経験、習得したことを基に、更に学習を深め、今後活かしていきたいと思えます。

大変ご多忙の中ご指導いただいた小笠原和人先生、三浦一郎先生をはじめとした南部病院の職員の皆様、診察に協力して頂いた患者さんに心からお礼申し上げます。



クリニカルクラークシップ担当医 三浦先生より

今年初めて医学生の受け入れを行いました。前例がないのに選んでくれた谷本先生、三上先生、ありがとうございます。当院の実習では、地域医療における整形外科の役割を理解することを柱として、見学だけでなく実際に手を動かし、色々な手技を体験できるようにプログラムを考えました。さらに、職種間の垣根が低いことをいかし、リハビリ、地域連携、看護など病院内の様々な職種を経験してもらいました。これは研修医になってからでは難しいので良い経験になったと思います。また積極的に質問をしていただくことで、指導する側も、初心に帰り、大変勉強になるという効果もありました。一方、医学生の受け入れに慣れていないため、色々不手際があったと思われ、これは今後改善していきたいと思います。最後になりますが、嫌な顔一つせず学生実習に協力していただいた多くの患者様に感謝いたします。皆様の協力が良医を育てていきます。本当にありがとうございました。



今話題の!!

オンライン診療はじめました

記 新井田



オンライン診療とは

スマホ・タブレットのテレビ電話機能を利用し、オンラインで受診が出来る診療です。当院では「遠隔診療ポケットドクター」アプリで、医師による遠隔診療を行います。

オンライン診療のイメージ



興味のある方は、お気軽に
外来スタッフまたは受付職員まで
お問い合わせください。

H30 年度 ごちゃませ研修会

記 宮森

当院では毎年、全職員の意識向上をめざし、看護職、栄養科、環境整備課等、いろいろな職種や勤務年数を組み合わせて、チーム医療に取り組めるよう「ごちゃませ研修会」を実施しております。

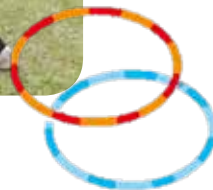
この研修会は、院内、院外でもおこなっており、全員が参加し、楽しく学べるよう工夫されております。本年は5月から7月の間におこないました。



手をつないだ状態から立ち上がることを目指すゲームです。2人から始まって、4人8人と増やし、最後はチーム全員で同時に立ち上がる事を目指します。人数が増えるにつれて難易度が上がり、参加コミュニケーションや協力、どうやって立ち上げるかの発想の転換が必要となりました。



チームでフラフープを人差し指で支えて、誰の指も離れずに地面につけることができれば達成というシンプルなゲームです。実際にやってみると奥が深く、人差し指が離れないように意識するとフラフープが上に上がってしまうというジレンマが起こります。チームでの意思疎通が重要！



全員で手をつないで輪を作ってもらいます。誰も手を離さずにフラフープを一周回すアクティビティです。



背中とお腹に風船を挟んで、風船を落とさないように、割らないように、早くゴールする、という単純なゲームです。アレアレ!? 後ろに気を配らないとバラバラに・・・声かけしてね!



みんなの意見を取り入れ、知恵をだしあった!

チーム力を高める「マシュマロ・チャレンジ」は限られた材料で時間内に高く積み上げ、頂上にはマシュマロをのせて高さを競うゲームです。発想力、バランスの工夫等を膨らませチームの意見を聞きチャレンジする姿勢が築かれます。



土台と安定感が大事!



【参加者からの感想】

- ゲームは1人では出来ない。皆がいるから、一緒だから楽しい。チームの重要性を感じた。気分転換になりストレス解消になった。
- 共同で行うゲームで、上司や部下の立場になって相手の立場を理解するなどゲームを通じ、互いを理解し、信頼関係を構築できた。



2018年度

南部町フルーツ娘 として活躍

記 佐藤

このたび、当院の中村園美（なかむらそのみ）さんが、南部町のフルーツ娘に選ばれ、当町が誇るサクランボなど果物の宣伝活動や各種イベントに参加しております。

今年のサクランボは、過去10年で一番の豊作です。これからはブルーベリー・梨・桃などの果物が採れますので、多くの方々に召し上がっていただきたいです。



中村 園美 さん

編集後記

今夏は、南の方では大雨による甚大な被害や、猛暑が続く中、先日41.1度の観測史上最高の気温が記録され、猛烈な暑さが続いています。この北国でも、30度以上の日が続き、熱中症になる方が増えてきているようですが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。

今号は、「蜂刺され」について取り上げました。これから秋にかけて活動が活発になる蜂です。刺されたときに慌てないためにも、応急処置のための自己注射薬は、当院で処方できますのでご相談ください。

今年度は、「ごちゃませ研修会」と称し年齢・職種の壁を越えて楽しく研修を行いました。終了後は職員の結束力が高まり、ますますチーム医療への意識が向上し患者様に還元できればと思っております。また、臨床実習生として弘前大学医学生の受け入れが始まりました。ほぼすべての職種に回っていただき、こちらも身の引き締まる思いでお話しさせていただきました。将来の方向性の一助になればと思っております。

オンライン診療は、これからの時代、利便性のある診療だと思えます。今でなくても将来において利用して頂ければと思えます。まだまだ暑い日が続きますが、水分をこまめにとり食事や休息、睡眠に気を付け暑さを乗り切りましょう。

南部病院 広報委員会 出町
(平成30年8月発行)



社会医療法人博進会 南部病院

電話 0179-34-3131

〒039-0105

三戸郡南部町大字沖田面字千刈52-2

FAX 0179-34-3130

<http://nanbu-hp.or.jp>

広報誌スワンは、当院ホームページにも掲載しております